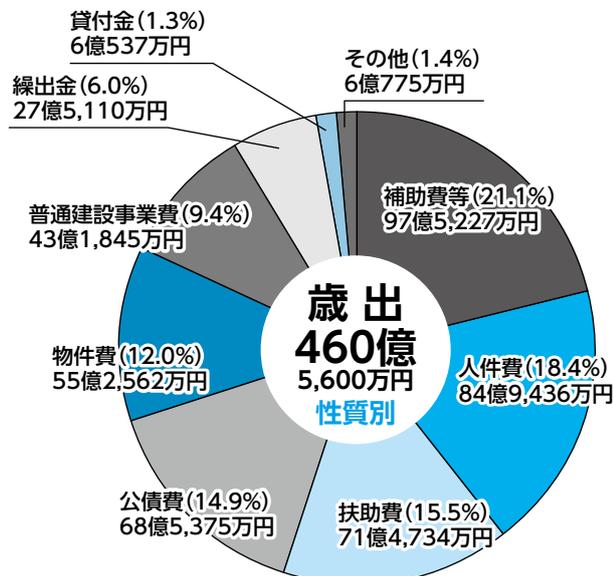
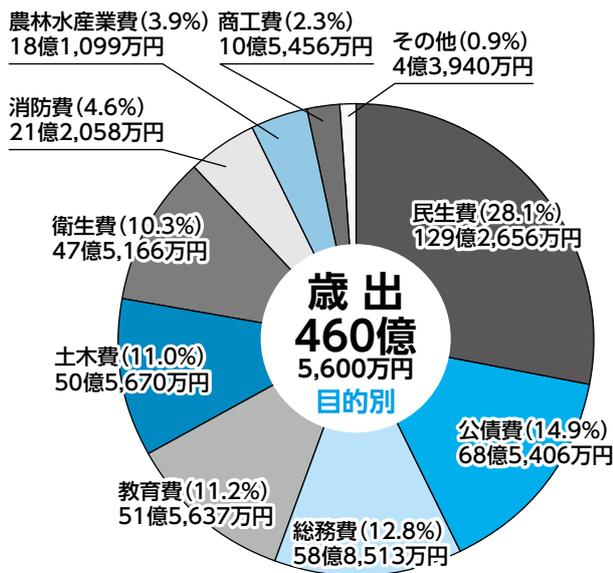
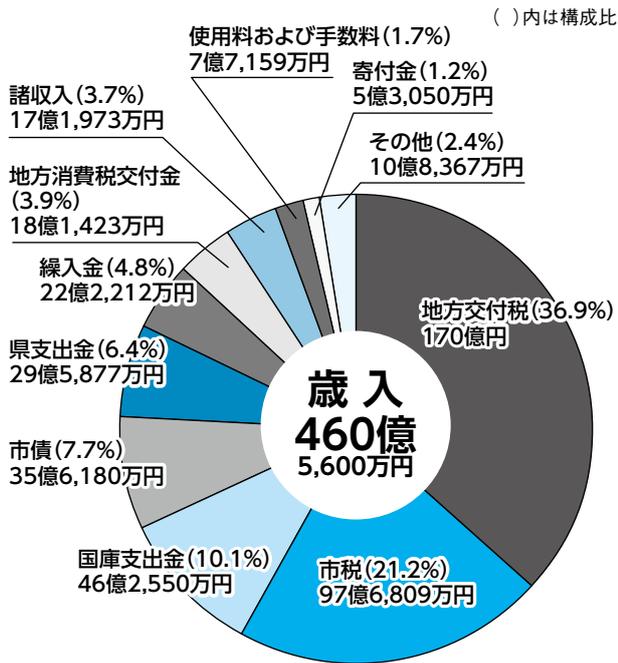


## 一般会計 歳入と歳出の内訳



## 各会計の予算と前年度との比較

### 各会計予算・前年度比較

(単位：万円、%)

会計	2020年度 (万円)	2019年度 (万円)	差額 (万円)	増減 (%)
一般会計	4,605,600	4,665,700	△ 60,100	-1.3
特別会計	2,065,040	1,987,263	77,777	3.9
国保(事業)	888,464	848,958	39,506	4.7
国保(直診)	8,304	8,731	△ 427	-4.9
後期高齢	128,175	124,599	3,576	2.9
介護	1,001,555	966,677	34,878	3.6
診療所	27,340	26,581	759	2.9
霊苑	843	790	53	6.7
太陽光	10,147	10,705	△ 558	-5.2
管理会	212	222	△ 10	-4.5
企業会計	1,499,763	1,506,532	△ 6,769	-0.4
水道	403,906	378,636	25,270	6.7
下水	1,095,857	1,109,812	△ 13,955	-1.3
農業共済	0	18,084	△ 18,084	皆減
合計	8,170,403	8,159,495	10,908	0.1

### 借金

#### 市債の残高 (2020末見込)

市民1人当たり130万円

一般会計	494億3,083万円
特別会計	7,949万円
企業会計	554億879万円
総額	1,049億1,910万円

### 貯金

#### 基金の残高 (2020末見込)

市民1人当たり25万円

財政調整基金	34億3,963万円
特定目的基金	148億8,226万円
定額運用基金	8億874万円
特別会計分	10億4,853万円
総額	201億7,916万円

※人口 80,858人 (2020年1月末現在の住基人口) で算出

# 2020年度 豊岡市予算(案)

## 「小さな世界都市・Local&Global City」

### 予算の総額は 817億403万円

前年度比0.1%増

一般会計	460億5,600万円	前年度比 1.3%減
特別会計	206億5,040万円	前年度比 3.9%増
企業会計	149億9,763万円	前年度比 0.4%減

※端数処理で合計が合わない場合があります。

#### 2020年度予算の基本姿勢

- 市民の日々の暮らしを着実に支え続ける。
- 基本構想に掲げる「小さな世界都市-Local & Global City-」を実現する。
- 地方創生に的確に対応する。
- 四つの危機(災害、コミュニティ、経済、財政)からの脱却を目指し、的確に対応する。

《問合せ》 財政課 ☎21-9014

### 予算の内訳

本市の会計には、一般会計、特別会計、企業会計があります。一般会計は、教育や福祉、土木など、市の基本的な行政運営経費を経理するものです。特別会計、企業会計は特定の事業を行うために目的別に設け、受益と負担の関係を明らかにするために個別に経理するものです。

2020年度の予算は、一般会計、特別会計、企業会計を合わせた11会計の総額が817億403万円、1億908万円(0.1%)の増としました。

それぞれの会計における2020年度予算は、次のとおりです。

#### 一般会計

一般会計の予算額は460億5,600万円、6億100万円(1.3%)の減としました。

歳入では、地方譲与税および各種交付金は森林環境譲与税、地方消費税交付金の増加などにより2億2,444万円の増、地方交付税は、普通交付税を地方財政計画による地方交付税総額の増加見込みと2016年度から始まった合併算定替の段階的縮減などの影響も加味した上で1億円(0.6%)の増としました。一方、市税は法人市民税の税率改正の影響等により5,555万円(0.6%)の減、繰入金は財政調整基金繰入金を減額としたことから5億8,667万円(20.9%)の減としました。

歳出では、地方創生推進事業として総額5億4,900万円を計上しました。また、目的別では、民生費は、幼児教育無償化等の社会保障関係経費の増加等により1億8,746万円(1.5%)の増、教育費は、植村直己冒険館機能強化事業等により6億2,556万円(13.8%)の増としました。一方、

総務費は、プレミアム付商品券事業の終了等により2億2,036万円(3.6%)の減、土木費は、橋りょう長寿命化事業の減額、要緊急安全確認大規模建築物耐震化助成事業の終了等により10億6,853万円(17.4%)の減としました。

なお、市政推進のため必要不可欠な事業予算を計上しましたが、歳出に見合う財源が不足したため、財政調整基金から12億円を取り崩し、収支均衡を図っています。

この歳出を性質別にみた場合、扶助費は、2,145万円(0.3%)の増、人件費は会計年度任用職員制度導入等により3億3,869万円(4.2%)の増、公債費は、1億3,034万円(1.9%)の増とし、扶助費に人件費、公債費を加えた義務的経費は全体で4億9,048万円(2.2%)の増としました。

また、普通建設事業費は、公共施設整備を実施する一方、旧出石文化会館解体の終了等により3億807万円(6.7%)の減としました。

#### 特別会計・企業会計

特別会計の予算は8会計の総額が206億5,040万円で、国民健康保険(事業勘定)特別会計における保険給付費、介護保険事業特別会計における保険給付費の増加等により7億7,777万円(3.9%)の増としました。

企業会計の予算は2会計の総額が149億9,763万円で、水道事業会計および下水道事業会計において企業債償還金を増額とした一方、営業費用の減額等により、6,769万円(0.4%)の減としました。農業共済事業は全県1組合となり兵庫県農業共済組合へ承継されるため廃止となります。